



自然と共に生きる力を育む町 南三陸町における民泊体験

(一社)南三陸町観光協会 事務局長 及川 和人



南三陸町の民泊体験のはじまり



南三陸町は宮城県北東部、太平洋に面する人口12,000人の港町で、牡蠣やホタテ、ワカメ、銀鮭などの養殖漁業を基幹産業としている。2011年の東日本大震災で甚大な被害を受けながらも、全国全世界からの物心両面での支援をいただき、復興を果たすことができた。南三陸町では震災以前から教育旅行の誘致と受入体制の整備を実施してきた。受入れの柱となってきた「民泊体験」は

地域のありのままの暮らしや生業を感じてもらう「くらし体験」の形で提供している。そのため受入家庭の職種も様々で、



民泊のお父さんと一緒に夕飯作り

農林漁家のほか一次産業に従事していない家庭でも受入れを実施するなど、地域が一体となった取り組みを行っている。

民泊体験のはじまりは1990年代からで、登録家庭を中心に組織された「南三陸町ファームステイ推進協議会」が受入れをスタートさせ、10年以上にわたり民間組織が受入れの窓口と実際の受入れを担ってきたところである。

2008年に南三陸町観光協会が法人化し、第三種旅行業を取得。問い合わせ窓口の一本化を図る際に民泊事業を引き継いだ。南三陸町観光協会では、地域内で民泊登録を推進する専門員を配置し、新規民泊受入家庭の開拓を行った。その結果、町内の登録家庭数は105軒に増加。400名規模の学校団体の受入れが可能となった。民泊体験の他、農林漁業体験、専任研究員のいる町施設と連携した環境学習の受入れなど、地域資源や域内人材と連携を図り、教育旅行の受け皿となる体制整備に注力した。地域全体で教育旅行の受入れに対する機運が高まりつつあった矢先の2011年3月11日、東日本大震災が発生。南三陸町では、死者620名、行方不明者211名、住宅の約60%が流失する甚

大な被害もたらされた。人的被害、建物被害のほか漁業をはじめとする一次産業、商工業など、地域産業そのものが観光資源であった南三陸町の観光業や、教育旅行への影響も甚大なものであった。



対面式の様子

震災からの復興と民泊の再開



震災翌月の4月、町にはまだ電気や水道のライフラインすら復旧していない中、観光協会の仮事務所に、ファームステイ協議会のお母さん方や漁業体験の受け皿となっていた漁師さんが訪ねてきた。

「いつでも受入れが再開できるように準備をしておく」。地域の力強い後押しを受け、教育旅行の受入れ再開に取り組みすることとなった。民泊家庭の半分は津波により住居が流失、家族を失った方、仕事を失って町を去ってしまう方もおり、登録家庭数は激減したが、2013年頃より小規模校の受入れを皮切りに民泊の受入れを再開、現在も登録家庭15軒ほどで受入れを継続している。

震災後の民泊体験では、「震災の経験談」を子どもたちに伝えてほしいという要望が増え



ている。受入家庭の方々もしっかりと自分の言葉で震災について話をしてくださっている。震災の体験談を直接伝えることで、子どもたちの防災意識の向上や、命の大切さ、他人に対する思いやり、地域への貢献意識の向上などが育まれている。参加した中学校の教員からは、「震災と復興の大変さはもちろんだが、地域のつながりの大切さも学ぶことができた。生徒の成長の場になった」との声をいただいている。実際に民泊体験に参加した中学生からは、「家族の中でも一人一人役割を持って生活することが大切なのだと感じた。家庭の中で、自分が今何をすべきなのかを考えられるようになった」との感想をいただいている。

震災後は、台湾からの訪日教育旅行でも民泊体験を提供している。台湾と南三陸のつながりは震災がきっかけである。東日本大震災で被災した町立病院の再建費用55億円のうち、4割にあたる約22億円を台湾国民から支援していただいたことを契機に、防災や交流をテーマにした若年層の将来に渡る相互交流事業の一環として、台湾からの訪日教育旅行の誘致を推進している。2015年以降40校が来町し、そのうちの29校が民泊を体験。学生にとっては、日本の地方の文化や生業を体験する機会となり、受入家庭にとっても異国の言語や文化を理解することができ、震災への支援に対する感謝の気持ちを直接伝える機



民泊家庭の様子



お別れ式後にみんなで集合写真

南三陸町観光協会の取り組み

会にもなるなど、民泊体験をきっかけに相互理解も進んでいるところである。

南三陸町観光協会では、教育旅行の予約調整・当日のアテンドまでを一括で担っており、現在は民泊体験を含め約40種の体験プログラムを提供している。民泊体験では昨年度11団体のべ657名の受入れを行った。受入家庭数を増やす試みは継続的に行っており、受入が、既存の登録家庭の高齢化もあり、受入規模拡大を図ることは非常に困難なところである。小規模団体での連泊や宿泊施設との入れ替え、近隣自治体との連携など、専門のスタッフが地域住民や関係機関と連携しながら体制整備を進めている。また滞在中の生徒が安心安全な活動ができるように、民泊家庭を対象にした安全衛生講習会を実施。有事の際の対

応策、食中毒やアレルギーに関する勉強を行っている。

教育旅行の理念と子どもたちに伝えたいこと

南三陸町観光協会の教育旅行部会（観光協会員のうち教育旅行に従事する個人団体で構成する部会）では、2023年に南三陸町の教育旅行の理念を「楽しさの中に学びが、体験の中に未来が。自然の脅威・恵み・不思議を伝え、自然と共に生きる力を育む町」と定めた。

東日本震災により、自然の脅威を思い知らされただけでなく、その自然の恩恵を受けながら日々の暮らしがあることも改めて認識させられた。普段日常の中に当たり前にある家族や住まい、学校がかけがえないものであることを、当地域での教育旅行の活動中にぜひ自分事として感じてほしい。また人口減少や地球環境の変化による水産業への影響など、これからの日本全体が抱える課題の先進地である当地域で、未来を担う子どもたちが主体的に学べる環境を地域全体で整備しているところである。

【問い合わせ先】

(一社) 南三陸町観光協会

宮城県本吉郡南三陸町志津川字五日町

200011

TEL・0226-47-2550